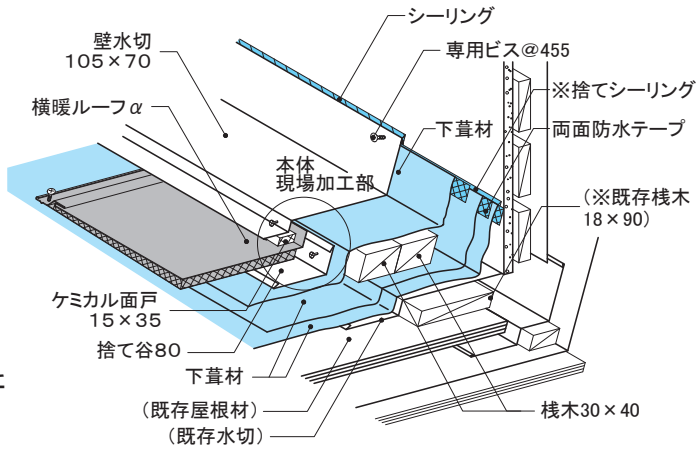
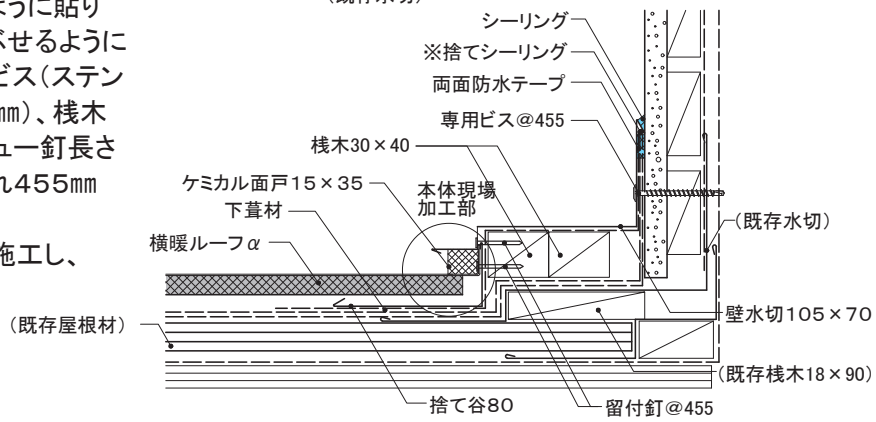
10）下屋根部
（既存水切を残す場合）

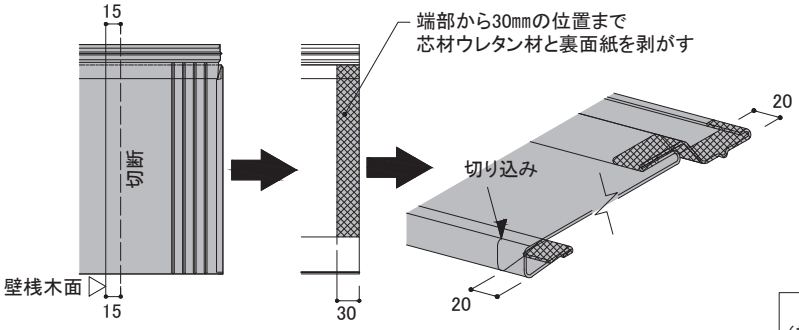
①流れ側　壁水切105×70＋捨て谷80

●既存桟木が健全な状態であるか事前に確認してください。
●既存屋根材に、下葺材を張ります。
（下葺材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。）
●桟木30㎜×40㎜を取り付けます。
●捨て谷80は留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜以上）を用いて455㎜以下の間隔で桟木に留め付け、図のように加工した横暖ルーフα本体を施工します。
●ケミカル面戸15×35を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス（ステンレスドリルビスφ4．4㎜×55㎜）、桟木には留付釘（ステンレススクリュー釘長さ32㎜以上）を用いて、それぞれ455㎜以下の間隔で留め付けます。
●壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



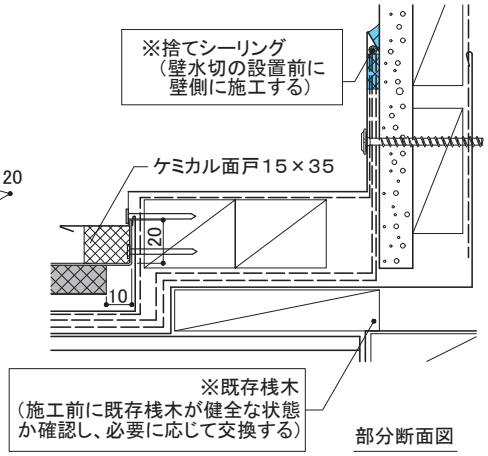


■施工ポイント・現場加工図
●横暖ルーフα本体の壁付部分は、図のように加工します。

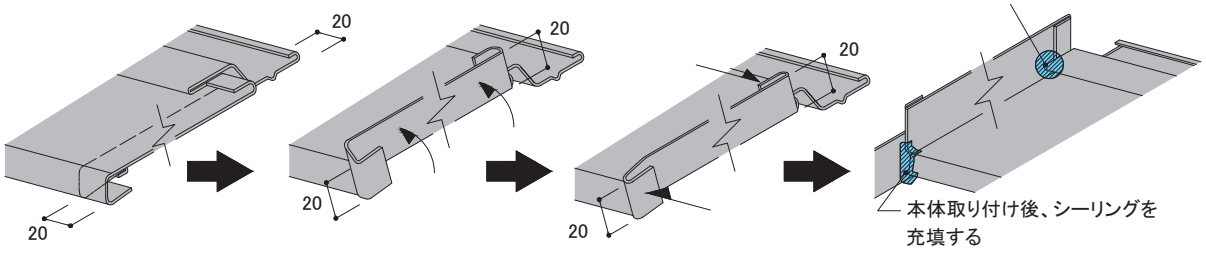


①壁桟木面から図の寸法で切断します。

②網掛け部分を切り落とします。



部分断面図



③切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

④Rの部分をつぶします。

⑤接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。